

第26代 八戸市長

くまがいういち

熊谷雄一市長が就任しました



「対話」を重ね「共感」を得られる
よう取り組んでまいります！



11月17日、熊谷市長が初登庁し、市庁玄関前に集まった市民の皆さんや市職員らの拍手で迎えられました。



11月16日、新旧市長の事務引き継ぎの様子

市長就任あいさつ

このたび、八戸市長という重責を担うこととなりました、熊谷雄一と申します。八戸市民の幸せを作るため、そしてまた八戸市政の発展のために職務に励みたいと思います。よろしくお願いたします。

言うまでもなく、人口減少、コロナ禍、デジタル化、あるいは環境問題への対応など、間違いなく今変化の時を迎えております。この変化に的確に対応しながら市政運営を行う必要があります。

なぜ、変化に対応していかなければいけないのか、一つは八戸のすばらしい伝統、文化、芸術、あるいは地域のコミュニティを守るためであり、突き詰めれば八戸市民の生命と財産を守るためであります。もう一つは、変化に対応しながら市民生活の質の向上に繋げるとともに、八戸の新しい産業振興に繋げていかなければならないからです。

八戸市の発展の歴史を振り返りますと、昭和39年の新産業都市指定が大きな契機であったという事は共通の認識であります。当時は、行政、経済界を始めとする市民一体となった強力な運動を展開することによって指定を受け、また指定を受けた後も様々な事業を展開しながら、その後の八戸の発展の礎を築いたと私は先人から伺ったことがあります。

今、コロナ禍で活動は制約されておりますが、その一体感をしっかりと醸成し変化に対応しながら、八戸市の更なる発展に繋げていきたいと考えております。

そのことも含めまして、先の市長選挙におきまして、私は「対話」と「共感」というスローガンを掲げました。

ある大学教授によりますと、「対話」は会話あるいは雑談と違いまして、価値観や考え方の違いを認めながらも正面から向き合い、話し合い、それぞれのテーマについて考え方を深めていく、それを目指すことを「対話」と言うそうです。市民の皆様との対話を積み重ね、市政に対する理解と共感を得ながら市政運営に努めてまいります。

私は、これまで20年間、地方議員として仕事をまいりました。いろいろな活動を通じ、市民の皆様の声聴き、できることは行い、できないことは別の提案をしながら願いや希望に応え、そのことを自分の喜びとまた励みにしてまいりました。これまで以上に市民の皆様へ寄り添い、意見を聴き、願いや希望に応える、そのことに生きがいや仕事の上の喜びを見出しながら、職務に邁進してまいります。

熊谷市長 プロフィール

昭和37年9月7日生まれ。八戸市出身。
昭和60年 日本大学法学部政治経済学科卒業
平成13年 八戸市議会議員(1期)
平成15年 青森県議会議員(5期)
平成23年 東日本大震災対策特別委員会委員長
平成27年 議会運営委員会委員長
平成29年 青森県議会議長
令和3年11月17日、八戸市長に就任(現在1期目)



市職員に『『市民力』を結集し、新しい八戸を創っていきましょう』と訓示

小林市長退任

11月16日、小林眞市長は、任期満了により、4期16年務めた市長職を退任されました。

市長退任あいさつでは、「八戸はすばらしい街であり、可能性と潜在力があります。新しい市長を支えて、皆でまた盛り上げていくって欲しいというのが私の願いであります。更にこの八戸が発展していくように心から願っているところです」と市職員を激励しました。

続けて行われた記者会見では、「市民の皆様には様々な地域活動に活発に取り組んでいただき、そのことが八戸の元気につながっていったと思っています。新しい市長にも八戸市を盛り上げるような協力をしていただければ」と話しました。



市民の皆さんや市職員らに見送られながら退任する小林市長(11月16日、八戸市庁で)